



ICT 海外ボランティア会会報

No. 23 (旧、NTTOBSV 会会報)

2011年2月27日(日)

Home page : <http://sv.nttob.org/>

e-mail : sv@info.nttob.org

目次

- ◆ 巻頭言 海外駐在と NTT の海外事業
株式会社 情報通信総合研究所 常務取締役
兼グローバル研究グループ部長 真崎 秀介氏

- ◆ 新春寄稿 サマセット・モーム・スイート
田上インターナショナル代表
田上 智 氏

- ◆ 本会入会者リレー寄稿
ICT海外ボランティア会及びJOCVOBの発展にむけて
NTT-AT営業本部第四営業部門長
北島 浩司氏

- ◆ 現地便り
モンゴルの新年 (モンゴル便り1)
モンゴルラジオ・テレビ大学 (SV) 野村 徹 氏

- ◆ JICA SV 23 年春募集説明会会場案内
『関東エリア・新潟』
事務局

- ◆ JICA 「メールマガジン配信登録」 のおすすめ
事務局

海外駐在と NTT の海外事業

株式会社 情報通信総合研究所 常務取締役
兼務グローバル研究グループ部長 真崎 秀介

☞ はじめに

ICT 海外ボランティア会の会員の皆様、日頃ご無沙汰しております。NTT グループのシンクタンクの（株）情報通信総合研究所でグローバルを担当している真崎です。2003年7月から現職ですが、この間、2006年から2008年の北京オリンピック直前まで北京の持株中国代表事務所に赴任をしていました。今回はこれまでの海外駐在とNTTの海外事業を振り返って今後のNTTのグローバルビジネスについて考えてみたいと思います。私の自分史のようになり恐縮ですが、お付き合い願えればと思います。

☞ 二度のバンコック駐在

最初に海外に赴任を経験したのは1986年～1990年までのバンコック事務所勤務でした。赴任した年はプーミッポン国王の還暦にあたり、タイでは「ビジット・タイイヤー」と位置付け、観光誘致に力を入れていました。観光産業の裾野は広く、このキャンペーンによりタイの経済がテイクオフしました。日本では1985年のプラザ合意の後、一気に円高が進み、日系企業が数多くタイに進出したのもこの時期でした。「5円族の襲来」ということで円に対しパーツの価値が半額になったため、日本からの観光客も急増しました。「ナバタニゴル



フ場でゴルフをし、ドゥシタニホテルでパーティを開き、夜はタニヤでカラオケ」と日本人ばかり集まる傾向を「三タニ族」と現地駐在員が自戒を込めて揶揄していました。またこの時期はNTTの民営化で設立されたNTTインターナショナルが海外でのビジネス発掘のため活動を開始した時期でもありました。従ってバンコック事務所の活動も従来のリエゾン業務からNTTインターナショナルのビジネス、いわゆる「プロファイ」のサポートに重点が移っていきました。

二度目のバンコック赴任は1993年～1995年のTT&Tプロジェクトに従事するためでした。TT&Tプロジェクトはバンコック首都圏以外に100万回線増設をするというNTTにとっての本格的な海外事業であり、このためにNTTから一度に50名近い社員が現地に派遣されるという前代未聞のプロジェクトでした。私は中崎COO（業務執行責任者）室長ということで中崎COOを補佐し、NTT派遣者の業務をサポートする企画総務的な役割を果たしました。その後、TT&T社への派遣者がNTTの国際事業の中核となって活躍しました。

☞ ジャカルタ駐在

TT&Tプロジェクト駐在を終えて、茨城県水海道支店で支店長を経験した後、1997年～1999年までインドネシアジャカルタ事務所長を務めました。ジャカルタ事務所時代はNTTの海外ビジネスが更に加速されており、事務所活動もリエゾン業務よりもビジネスをサポートする活動に重点が移っていました。主に日系企業へネットワーク、ソリューションを提供していたNTTと現地企業との合弁会社インテクシス社の事業サポートと、中部ジャワ地域で40万回線増設プロジェクトを行うインドネシア国営国際通信事業者のインドサット社とオーストラリアのテルストラ社との合弁会社サポートでした。

この時代はタイに始まるアジア通貨危機に見舞われた時代でインドネシアの通貨ルピアの価値も暴落したため輸入機材が不足し、飛行機の部品も取り換えが滞っているという噂がありました。プロジェクトの拠点がある中部ジャワの州都スマランはジャカルタから約1時間のフライトですが、いつも不安な気持ちで飛行機に乗り込んでいました。

インドネシアの通貨危機は1998年のジャカルタ暴動、スハルト政権の崩壊に至りました。ジャカルタ暴動後、現地の治安は急速に悪化、現地に派遣されていたNTT社員、家族も一時日本へ退避することになりました。日本への避難のためスカルノハッタ空港のロビーで半日、避難のための臨時便を待ったのが思い出されます。

1999年にNTTの再編成が行われ持株会社に国際担当が置かれることになり、2年余りのジャカルタ駐在を終え、発足間もない持株会社国際担当に異動しました。NTTの再編成の背景として国際事業への取り組みが前提とされていたために持株会社では2000年以降、海外での大型出資を矢継ぎ早に行いました。NTTコミュニケーション、ドコモが合わせて2兆円以上の海外出資を行いました。その後、いわゆるITバブルが弾けて多額の減損に追い込まれました。

☞ 北京駐在

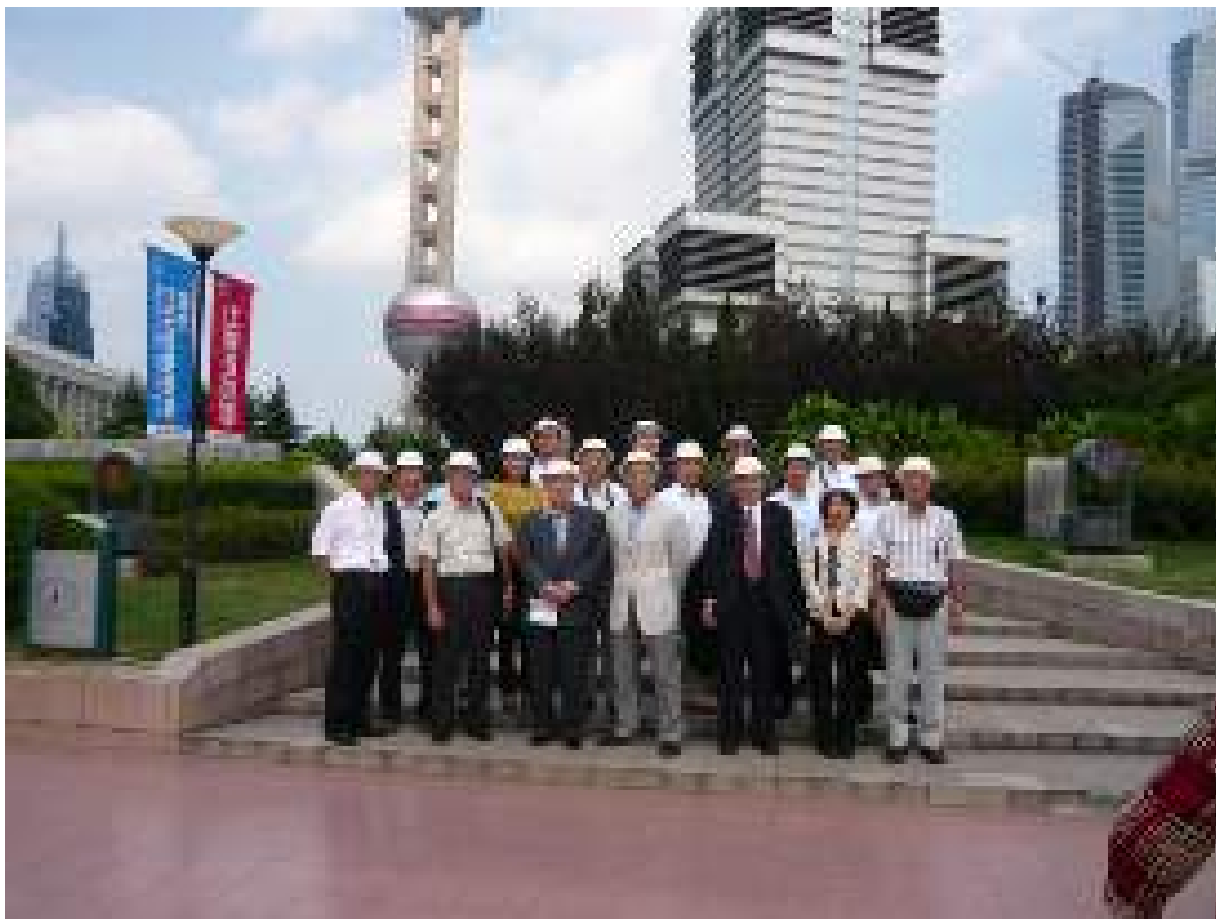
北京駐在で経験した中国におけるビジネスについて所感を述べたいと思います。2003年に

NTT を退職し、現職の（株）情報通信総合研究所で海外の調査研究を担当することになりました。2006年には持株会社が直接、中国代表事務所を北京に設置することになり持株顧問の立場で中国代表として北京に赴任することになりました。

持株会社が中国代表事務所を開設することになったのは2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博など大きなイベントが続き、発展が見込まれる中国においてNTTグループを挙げてビジネスを展開するためでした。従って赴任後の大きなミッションは北京オリンピックにおいてNTTの技術、サービスを導入することでした。しかし北京オリンピックまでは残された日数が少なく、通信インフラへNTT技術を導入するには時間的に無理があり、R&Dの成果を反映させることに目標を絞りました。当初、北京の空気汚染を分析する大気汚染センサー（この技術は南米チリの銅山に導入されています。）の導入を図りましたが日本側パートナーの了解が得られず見送りとなりました。結果的には、太陽電池の効率を高める昇圧モジュールを使った太陽電池フットライトの試作品がオリンピック競技会場の大学構内に、NTTエレクトロニクスが提供するCODEC（圧縮映像配信）技術がオリンピック映像のカメラに導入されました。また、NHKなどと共同開発した非圧縮ハイビジョン映像のミリ波無線伝送により映像が日本に生中継されました。

☞ 中国ビジネスにおける光と影

2年半の短期間の経験ではありましたが、今後、中国でNTTの技術展開をする場合は中国の信頼できるパートナーと組んで技術開発をマーケットに近い現地で行う必要があると感じました。R&Dの拠点展開は知的財産の流出というリスクはあるものの欧米企業あるいは韓国企業は流出のデメリットよりも中国という大きな成長が見込まれるマーケットで製品



発展する中国を訪問した電気通信協会上海万博訪問団

(中央 宮津団長、高島副団長 2010.9.7 於上海東方明珠塔を背景に)

開発を行い、競争力のある価格で販売に成功すると即グローバル展開が可能というメリットをとっているように思われます。

日本企業のなかでも縮小する国内マーケットでは成長が望めないとしてリスクをとって中国をはじめ東南アジアに海外進出する企業が企業価値が高まるという結果が現われています。現在、NTTグループもNTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、NTTデータ、NTTファシリティーズなどが中国各地に拠点展開しており、NTTグループの従業員数も年々拡大の一途を辿っています。中国におけるNTTの活動の歴史は古く、人脈やノウハウも蓄積されています。今後グループのシナジーを発揮すれば更に大きな飛躍が期待されると思います最後になりますが中国ビジネスの影の部分についても触れてみたいと思います。昨年9月上海万博に行く機会に恵まれました。上海万博では中国の発展を目の当たりにすることができました。しかし、他方では高度成長が生み出した歪みー公害、薬害、有害添加物、バブル崩壊、少子高齢化、年金問題・などが順調な発展を遂げる中国社会に大きな「影」を落とし始めています。一つは環境問題であり、数年前には上海の内陸部にある太湖が汚染のため悪臭を放ち、大きな問題となりました。また、不動産バブルが次第に膨らんできており、上海市内の高層マンションの値段は東京を超える相場となっています。「影」の部分で最も深刻な問題は急速に進む少子高齢化の問題といわれています。30歳前後の働き盛りは既に一人っ子であり、今後定年退職する多くの高齢人口を彼等が背負わないといけない事態が今後5～10年後には起こってきます。人為的な政策による少子高齢化だけにその影響の大きさは日本以上に深刻といえるでしょう。リーマンショック後の世界不況のなかで日本経済が持ちこたえているのは中国をはじめとするアジアの発展を取り込めていることが大きいと言えます。中国の抱える「影」の部分が顕在化し、危機的状況が訪れた場合、問題は中国にとどまらず、日本の経済、社会にも深刻な影響を及ぼすのは間違いないと思います。

關列島漁船衝突問題が次第に大きくなり、日中間の政治問題に発展し、両国間の国民感情の悪化に拍車をかけてるのは極めて残念です。これまでもお互いの理解不足から日中関係がこじれたことが過去、多くあり、正常に戻すには多大な時間と労力を要します。

中国が抱える問題を日本がこれまで克服してきた経験と技術により未然に防ぐことが重要であり、環境や省エネの分野においてはビジネスとしても日本の技術が生かせるチャンスがあり、中国側の期待も大きいと思われます。

☞ おわりに

ドコモによるインドのタタグループのモバイル事業への出資以降、昨年秋には持株会社がディメンション・データ社、NTTデータが米国情報システムのキーン社など大型出資を行い、NTTグループが再度、本格的なグローバル事業展開を始めています。現在、情報通信総合研究所においてグローバル事業展開のサポートのための調査研究・分析を行っています。

これまで長年にわたり、海外のプロジェクト、あるいは海外専門家として活躍された先輩、同輩の皆様がこれまでの貴重な経験とノウハウを現役世代に引き継いでいただくことが重要だと思います。

最後にいつもお世話になっております加藤事務局長、本会報への執筆へのお声をかけていただいた村上さんへ感謝申し上げます。

新春特別寄稿（2）

サマセット・モーム・スウィート

田上インターナショナル代表

田上 智

少年時代に最も感動し、自分の生き方の基層になったのは、サマセット・モームの小説「月と六ペンス」。絵を描くために裕福な株式仲買人の地位や妻子をすててタヒチに逃げたフランス人画家・ゴーギャンをモチーフにした作品だ。作者モームはその作品の多くをヨーロッパではなくアジアの港町のホテルで残している。何故アジアで？と問われた時、決まって「アジアの港町の喧騒が創作意欲を沸き立たせる」と答えたそう。最もよく知られているのが、シンガポールのラッフルズ・ホテル。モームのまねをして、何か書き物をする宿泊客も多いと聞く。

モーム狂いの私はずいぶんタヒチから 1300 キロも離れた小島ヒバ・オアにあるモームの墓まで見に行ったぐらいだからその狂い方も本格的だ。モームが創作にいそしんだ部屋のいくつかは今でも、サマセット・モーム・スウィートとして残っている。おそらく NTT からの出張者のだれもがモームが居た部屋を見るなどという酔狂な趣味など持ち合わせていないだろう。



筆者近影

「月と六ペンス」を書き上げたのが、バンコクのオリエンタルホテル。タイ TT&T プロジェクトの契約交渉の定宿は、NTT 事務所に隣接し、歓楽街タニヤにも 近いデュシタニだったが、めったにないことだが、セレモニーがオリエンタルである時は、街の雑踏から隔離されたチャオプラヤ川沿いのオリエンタルを使った。そのサービスは世界最高ともいわれ、従業員へのしつけや宿泊客に対する心遣いも行き届いている。

タイ土産で出張者が良く買うジム・トンプソンのネクタイだが、そのブランドは創始者のアメリカ人の名前を取ったもので、その人物とオリエンタルホテルは深い関わりがある。ジム・トンプソンはもともとアメリカ軍の軍人だが、一時期、名にしおうあの諜報機関 CIA の前身 OSS のバンコク支局長でもあった。建築家としての才能もあり、ホテルの改築に一役買ったのだ。衰退しつつあったタイシルクの伝統を見事に復興させたにもかかわらず、休暇で訪れたマレーシアの避暑地キャメロン高原で謎の失踪をとげってしまったが、ジム・トンプソンの名はタイシルクのグローバル・ブランドとなって残った。

さて、そのめったにないオリエンタルホテルに宿泊した時だが、常々見たいと思っていたので、絶好のチャンスとばかりに、強引にたのんで「サマセット・モーム・スウィート」を見せてもらったことがある。オーサーズスイート（作家たちの部屋）という名の棟の 101 号室がジョセフ・コンラッドの部屋、102 号室が「サマセット・モーム・スイート」だ。そこは、チーク材で出来た天蓋付きのベッドで蚊帳を覆うように出来ており、まるでタイ国王の為に用意されたような荘厳な装飾が施された部屋である。もし仮にオリエンタルに泊ま

る幸運に恵まれたなら、横を流れるチャオプラヤ川を眺めながら、タイの美女とトムヤムクンを食し、夜は、サマセット・モーム・スイートで過ごせば、おそらく地上の楽園の気分だろう。昨年公開されたバンコクが舞台の映画「サヨナライツカ」の主人公で、女優・中山美穂演ずる杏子（とうこ）が宿泊していたという設定もこのサマセット・モーム・スイート。

スリランカテレコム勤務の時には、休日は、コロンボの喧騒を逃れて、海沿いのマウントラビニアホテルで休んだ。イギリス総督の別荘だっただけに、何もかも真っ白な瀟洒な建物。インド洋を望むオーシャン・ビューは、日常のちり芥を洗い流す。ここでも、私はモーム狂いの本領を発揮。フロントに頼み込んで、サマセット・モーム・スイートを拝んだ。ベッドのつくりはオリエンタルと一緒にだが、オリエンタルの場合自然のチークの素材を生かしたものであるのに、ここのは、朱の塗料で塗られている。もちろん、窓からは亡羊とした青い海が目に入る。「ヨーロッパ人の予約で1年先までふさがっている」という人気ぶり。モーム狂いはどうやら自分だけではなかったのだ。

テレビのロケでオーストラリアの木曜島を舞台にしたレポートを作り上げたが、台本に無かった「モームの足跡」をここでも、リポーター特権で強引に入れ込んだ。モームの宿泊地はグランドホテル。ところが、残念なことに数年前に火事で全焼。当然、サマセット・モーム・スイートの跡形も無い。やむなく地元の新聞社で、在りし日のサマセット・モーム・スイートの“思い出話”を聞くのがせめてもの慰めだった。

実は、モームがイギリスの諜報機関のスパイだったことは現在では衆知の事実だ。世界を放浪する作家というのはある種の隠れ蓑で、「アジアの港町の喧騒が創作意欲を沸き立たせる」などというのも、真っ赤な嘘で、その頃大英帝国の植民地を脅かしつつあった日本軍の情勢を秘かにさぐっていたというのも一面の真実らしい。反対に日本軍のスパイも、オーストラリアでは、遠洋漁業の漁師にまじって英国の動きを探っていたという。

ここで、読者のかたにお願い。シンガポールのラッフルズ・ホテルでは、モームがよく通ったバーが今でもあって、モームに因んだ名のカクテルがあるそうだが、ご存知の方は是非そのカクテルの名前を教えて欲しい。ニュースステーションの久米宏との雑談で教えてもらったのだが、失念してしまった。以上、モーム狂いの一節である。 (了)

本会入会者リレー寄稿 第8回

ICT海外ボランティア会及びNTT JOCVOBの発展に向けて

NTT-AT

営業本部 第四営業部門長

NTT 東京青年海外協力会代表

北島浩司

ICT海外ボランティア会会員の皆様にはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。この度、ICT海外ボランティア会報へ投稿のチャンスを頂きました青年海外協力隊OB (JOCV: 1976~1978 ザンビア派遣) の北島浩司です。常日頃、ICT海外ボラ

ンティア会の加藤事務局長初め会員の皆様には大変お世話になっております。また、多方面でのご活躍の皆様に敬意を表すると共に心からエールをお送り申し上げている会員の一人です。

私が、これまで国際業務に携わって参りましたのは、冒頭にご紹介申し上げましたように青年海外協力隊員としてザンビアへの派遣が始まりです。その後、NTTがまだ1社時代の平成元年から4年間ほど当時の国際部 開発協力部門 アジア・大洋州担当にて、海外事務所の支援、派遣専門家の支援等を行う傍らで、JOCV派遣隊員支援、JICA対応窓口並びにNTT JOCVOB会との連携等、JOCVの発展を目指してさまざまな活動をさせて頂きました。折りしもVisit Asia時代の波に呼応してNTTとしてもアジア地域の強化に舵を切ったころでしたので、JOCVの派遣増強に向けて、インドネシア、タイ、中国、フィリピン、スリランカ等へ派遣に注力したことが思い出されます。また、帰国隊員（OB隊員）の名簿整理を初め全国でのOB会並びにOB諸氏と連絡を取り合い、JOCVのプレゼンスを高めるなど、NTTのグローバルビジネスの活性化に向けた取り組みのお手伝いをさせて頂きました。取り分け、国際人材育成の課題に対しては、JOCVへの若手社員の参加が最も効果があると信じて、当時は過去に類例がないほど多くの隊員を発展途上国へ送り出すことができたことを今でも誇りに思っております。

1999年にNTTが東西コムを初め分社化されて、国際業務をそれぞれの事業会社で実施されるようになり、アジア地域の中でタイ、インドネシア、スリランカの電話網拡充計画プロジェクトで多数の皆様が従事されておりましたが、ここにもJOCVOBが色々な場面で活躍させていただきました。

分社化されてから、NTTグループ会社間でもJOCVへの社員派遣の考え方、取り組みに濃淡が出てきております。当時は事業会社からの派遣がほとんどでしたが、最近ではNTTデータグループ企業の派遣が主体となっております。NTTデータグループ企業のご理解により、年間数名の皆様が開発途上国に派遣されていることをNTTグループの社員として心強く思っているところです。これからもNTTグループ企業からの継続的な派遣に向けて微力ながら啓蒙活動を行っていきたくと考えております。そして、NTT JOCVOB会とSV NTTOBの皆様と定期的に実施しております派遣隊員の壮行会も継続していき、若手社員の育成と共に両OB会の交流の場として発展していければと願っております。

一方、NTTでの国際業務経験者の集まりであります「NTT国際同友会」ですが、私も「NTT国際同友会」の幹事の一員として、微力ながら国際業務経験者の連携に尽力させて頂いております。JOCVOBの皆様には、是非とも「NTT国際同友会」にもご加入下さい。（入会方法につきましては北島まで）これはお願いです。年一回総会（毎年、6月開催、年会費無料）を実施し、グローバルビジネスの最新の動向等、その分野の専門家にスピーカーとしてお話を頂いております。また、昨年からはJOCVOBにも講演して頂いております。数多くの皆様に入会していただくことにより、「NTT国際同友会」を更に発展させていきたいと思っております。

さて、最後になりますが、今年、NTTはグローバル企業の事業展開をサポートする観点から、より幅の広いサービスを提供するためにディメンジョン・データ社を買収しました。NTTとしてこれまでにない最大のグローバルビジネスに向けた展開が始まりました。

JOCVOBの皆様、是非とも奮起していただき、グローバルビジネスの展開にチャレンジしていきましょう。

現地たより

モンゴルの新年（モンゴル便り 1）

モンゴル国立ラジオ・テレビ大学

監督コース（SV） 野村 徹

1. モンゴルの天気予報

1月末のモンゴルのテレビ画面に現れた天気予報

本日の天気 晴れ

最高気温 マイナス24度

最低気温 マイナス32度

これは首都ウランバートルの予報で

地方はマイナス40度を超える予報がでます。マイナス30度を超えると全ての物は凍ります。外を歩くとまばたきする時、まつ毛とまつ毛が凍り目がネバネバしてきます。髪の毛も吐く息も、まつ毛も凍りますよくこんな寒い所に人が住んでいるものだと感心しますが、もっと寒い地方の草原にも人は住んでいます。



2. ゲルの生活

モンゴルの約80パーセントは遊牧民で彼等はゲルというテントを住居とし、羊やヤギ、馬とともに移動しながら生活しています。

ゲルは言わばテントですから1日で組み上がります。中は入口の正面が祭壇になっています。モンゴルは仏教国（ラマ教）なので日本で言う仏壇があり、人から物を貰うと一旦、仏壇に供えます。

ゲルには水道も電気も風呂もトイレも有りません。トイレは外の広大な平原です。

水は雪を溶かして使いますストーブで薪を燃やし、その熱で煮炊きし暖房します。



3. モンゴルの正月

モンゴルのお正月は2月の初旬にあります。

日本の大晦日にあたる2月2日は夜になると人通りも少なく、街を走る車もまばらになります。12時に近くになると花火が上がりますが日本の様に大輪の花が咲かず、やたらに音だけ大きい花火です。

お正月は親戚が家に訪ねてきてお酒(チンギス ハーンというモンゴルのウオッカ)を飲み、ポーズというに肉饅頭の様なものを食べます。

日本のお餅の様に年の数だけ食べるのが良いそうですが10個も食べられません。各家庭では訪ねる人達のためにポーズを何百個と作るそうです。お正月のテーブルにはヘビンボーウというお菓子の上に砂糖菓子を並べ、その横に羊の肉を置きます。

私の配属先の学校では7日にお正月を祝いましたちなみにお正月はモンゴル語でцагаан (ツアガン・白い)

сар (サル・月) と言います。年長者が椅子に座り、年少者がひざまずく格好で頬と頬を合わせて挨拶します。多くの人はその日、モンゴルの民族衣装を着ます。

挨拶が終わりウオッカを飲み、ポーズを食べ歌を歌います。

日本の「北国の春」はとても有名です。

意外な事に、ピンキーとキラーズの「恋の季節」も有名です。



4. 相撲余話

モンゴルの人々は、相撲も好きです。

私も好きだと言うと「かよ」という相撲取りをしっているかというので知らないと言いました。私はかなり相撲に詳しいのですがその関取を知りません。日本では有名だと言うのですがそんな関取はいません。

かよ、かよ と言っている内に私はやっと分かりました。大関の「魁皇」なのです。

彼等は「かいおう」と発音しません。

「かよー」というのです。

JICA SV 23年 春募集 説明会会場案内 [関東エリア・新潟]

事務局

JICA SV 23年春募集説明会が次表により開催されます。気軽に参加されますことをお勧めいたします。これがSVへの第一歩です。また、当会会員が関心を持たれると思われる要請案件の要約を次会報（24号、4月上旬発行）でお知らせいたします。

関東エリア・新潟以外の会場と日程は、JICAホームページをご覧になるか、最寄のJICA事務所にお問い合わせください。

尚、当会事務局加藤隆が 4月3日（日）埼玉、4月5日（火）神奈川、及び4月17日（火）東京において、パネリストとしてSV体験を報告いたします。

(JICA HPより転載)

PREFEC TURE (都県)	DATE (日にち)	DAY (曜日)	OPEN (開場)	START (開会)	FINISH (閉会)	PLACE(会場名)
神奈川	3月27日	日	10:00	10:30	12:30	JICA 横浜
東京	3月29日	火	18:30	19:00	21:00	JICA 研究所
東京	4月2日	土	10:00	10:30	12:30	JICA 地球ひろば 3階 講 堂
埼玉	4月3日	日	10:00	10:30	12:30	大宮ソニックシティホール 4階 国際会議室
千葉	4月5日	火	15:00	15:30	17:30	アミュゼ柏
神奈川	4月5日	火	14:30	15:00	17:00	かながわ県民センター 2階 ホール
埼玉	4月13日	水	15:00	15:30	17:30	大宮ソニックシティホール 4階 国際会議室
東京	4月14日	木	18:30	19:00	21:00	東急スクエアビル 12階 八王子市学園都市センター
栃木	4月16日	土	10:00	10:30	12:30	とちぎ国際交流センター 2 階 多目的ホール
千葉	4月16日	土	10:00	10:30	12:30	フェイスビル 6階 船橋市民文化創造館(きららホ ール)
神奈川	4月16日	土	10:00	10:30	12:30	JICA横浜
東京	4月17日	日	10:00	10:30	12:30	JICA 東京(幡ヶ谷)
新潟	4月17日	日	10:00	10:30	12:30	UX新潟テレビ21 レクスン2 UXレクスタ 1階 多目的スペ ース
甲府	4月17日	日	10:00	10:30	12:30	山梨県立国際交流センター (パスポートセンター)
東京	4月20日	水	18:30	19:00	21:00	武蔵野公会堂 ホール
群馬	4月23日	土	10:00	10:30	12:30	群馬会館(県庁前) 1階 広間

JICA「メールマガジン配信登録」のおすすめ

事務局

当会顧問・JICA 青年海外協力隊事務局募集課長 佐藤 睦氏からのおすすめです。SV および JOCV 募集案内等情報満載の「メールマガジン配信登録」をしてください。きっと皆様のお役に立つと思われま

手順は次の通りです。

- ① Internet Explore で「JICA」を検索
 - ② 「JICA-国際協力機構」を選択し HP を開く
 - ③ 右手の **JICA ボランティア** をクリック
 - ④ **情報満載メールマガジン** をクリック
 - ⑤ **メールマガジン配信登録** をクリック
 - ⑥ 所定の個人情報を記入
- (<http://www.jica.go.jp/volunteer/index.hotmail>)

会報お読みの方々へのお願い

本会の拡充と共に、会報の充実も計ろうといたしております。

それで会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず、本会運営に当たっても大きな方向付けに役立ちます。どうぞ遠慮なくお送りいただきますようお願い申し上げます。

送付先は、編集部 加藤隆(kato2415@jasmine.ocn.ne.jp),または
村上勝臣(katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp)までお寄せ下さい。

編集後記

・ 梅の花もほころび、春近しを思わせるこの頃です。それに期を合わせて JICA の SV 春募集説明会が開始されます。気軽に説明会に参加されますことをお勧めします。きっとお役に立つ情報が得られると思います。個別の相談コーナーもあります。また JICA 「メールマガジン配信登録」をなさいますと、豊富な情報が、タイミングよく入手できます。この登録もお勧めします。

・ 巻頭言は真崎秀介氏、リレー寄稿は北島浩司氏よりいただきました。お二人とも極めて多くの海外業務経験をお持ちで、NTTの国際協力やビジネスの基礎を築かれ、且つそれ

らを現職として続けられておられます。お二人の海外業務に対する思い込み出ております。一層のご活躍をお祈りいたします。

(以上 加藤)

・ 田上インターナショナルの田上さんには、今回も寄稿していただきました。機会があれば、今後とも寄稿して頂きたいと考えております。

・ 「現地便りは」モンゴルでSV派遣中の野村さんに寄稿していただきました。私事野村さんとは、トンガでSVの同期でした。モンゴルでは相撲の魁皇を「かよー」と発音するようです。そうすると、白鵬や、朝青竜は日本語ネイティブスピーカーと言えるようです。出来ましたら野村さんには季節の移り変わりで寄稿してもらいたいと思っております。(村上)

(以上)

総編集長 : ICT 海外ボランティア会 事務局長 加藤 隆

編集長 : ICT 海外ボランティア会 報道部長 村上勝臣

発行 : ICT 海外ボランティア会

メール : sv@info.nttob.org